

皆様おはようございます。昨日は911の日でした。まさにアメリカでは今時差の関係でまだ9月11日です。20年前ニューヨークで同時多発テロが起こり、世界貿易ビルや、アメリカの国防総省などへの飛行機テロがあり3000人近い人が亡くなりました。日本人も24人が亡くなったそうです。それから20年が経ちました。あの時ビンラディン容疑者をかくまっていると言うことで攻撃を受けたタリバンは今アフガニスタンで再び政権を奪取し、そして民主的な自由が今束縛されているという事に心が痛みます。正義のための、正しい戦争と言うものはないことを知らされます。憎しみの連鎖を生み、元の木阿弥となり、平和は何処にあるのかと思わざるを得ないのです。それは中東だけではなくて、ここ日本でも同じこととして、他人事としてはならないと思います。世界中で平和が求められ続けなければならないということを深く教えられます。力の強いものが、一方的に力の弱いものを、正義の名のもとにと戦ったり滅ぼしたり、そういう力と力の対決で、罪もない人の命が失われる時、深い虚しさを感じ、終わることのない戦いの連鎖と言うものを感じるわけです。

今日の聖書の中にも対立構造があります。議論があります。そそのかし、扇動、逮捕、偽証があります。権力者によっての裁きがなされて行きますがそれはイエス・キリストの時と同様、人による、神様に逆らう働きであったということがはっきりと聖書には示してあります。ステファノと言う人は先週の個所でありましたように、使徒たちが祈りとみ言葉の奉仕に専念するために、日々の分配・食事の給食のことで建てられた執事であったはずでしたが、今日ステファノは表舞台に立っています。恵みと力に満ち、素晴らし不思議なわざとするしを民衆の間で行い知恵によって語りそして最高法院に引いていかれ、民衆、長老たち、律法学者たちの扇動により最高法院を相手にして語るという、そのようなまさに表舞台に出ることとなったと言うのは実に不思議なことです。神様の御召しというものは本当に私たちの捉えられるものではない、自由で凄まじく力強い御手の働きであるということを知られます。

さて、ステファノについて書かれている事は実に今日の個所の中でわずかです。

「さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。」「しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るのだから」「その顔はさながら天使の顔のよう」これだけです。後のすべては、人が神様の遣わしたステファノに対し反抗して事実を捏造して迫害する言葉で埋め尽くされています。

8節にさて、「ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。」とあり、これは素晴らしいことです。神の恵みに満ちて、恵みに満たされ完全な恵みに覆われて、恵みによって完全に成長し、そして力に満ちて神様の力によって、超自然的な力による奇跡的な力によって人が理解も解明もできない上から来るその力によってその恵みによってまさに神様によって彼は包まれ完全にされ、そして素晴らしい、目覚ましい不思議な、そして奇跡的なしるしを行っていた。それが神の僕であるという事ですね。元々はどのような召しによってそこに立たされたかはいざ知らず、神様は自由にそのご自分の僕を恵みと栄光と力の現わされるところとして、超自然的な力の表れと不思議と奇跡

的なしるしの目覚ましい素晴らしさが現れる所として用いられるということを学びます。そして主がご自身のしもべを用いて恵みと力に満ち、不思議な、超自然的な業を行うということは今日も変わりません。私たちにその務めは今日も導かれていると行うことができると信じます。神の恵み、イエスキリストにあって私たちを生かしてくださるそしてその贖いによって、私たちを恵みに満ちして、そして神の恵みの御業の中に動かし用いてくださる時、そこには力があります。

コリント 1 の 4 章 4:15 キリストに導く養育係があなたがたに一万一人いたとしても、父親が大勢いるわけではない。福音を通し、キリスト・イエスにおいてわたしがあなたがたをもうけたのです。

4:16 そこで、あなたがたに勧めます。わたしに倣う者になりなさい。

4:17 テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところのすべての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう。

4:18 わたしがもう一度あなたがたのところへ行くようなことはないを見て、高ぶっている者がいるそうです。

4:19 しかし、主の御心であれば、すぐにでもあなたがたのところに行こう。そして、高ぶっている人たちの、言葉ではなく力を見せてもらおう。

4:20 神の国は言葉ではなく力にあるのですから。

ローマ 1:14 わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。

1:15 それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです。

1:16 わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。

新改訳 1:14 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならない負債を負っています。

と彼は言いました。恵みと力に満ちて民衆の中で目覚ましい奇跡とするしを行っていた、その出来事は、ステファノの不退転の、切実な祈りによるものであったと思います。

親が子供に何かを買い与えるかどうかを考える時、それが本当に子どもに必要なかどうかを考え、それを本当に子どもが熱心に望んでいるかどうかを考えるものです。そうでなければそのものは与えても無駄になります。

この切なるステファノの祈りは天に通じ、つまり、「すばらしい不思議な業とするしを」民衆に示して、イエス様こそが救い主であるということを示してくださいとの彼の祈りは聞かれ、恵みと力とによってそれはかなえられ、知恵と聖霊によってその言葉による証しもな

された訳です。

こうして、多くの人が立ち上がりステファノと議論しました。しかし彼が知恵と聖霊とによって語るのも、誰も歯が立たなかったと、そのように書いてあります。

神の力によって語る人、その人に対して反対することができない、対抗できない、歯が立たない、そういう神様の力が働いているのです。用意のできた祈り手のためには、神様が働いてくださるのです。

立ち上がり、議論し、そそのかし、扇動して、逮捕し、最高法院へ引いていかれ、偽証人を立てられても、守られる、この神様の世界があります。

「最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。」

天使の顔のように輝きを放ち、神様から守られ、困難にも暗闇にも策略にも飲み込まれずに輝く天使の、しもべの生きざまがここにはあります。

ローマ書 1:14 わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。

1:15 それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです。

1:16 わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。

新改訳 1:14 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならない負債を負っています。

パウロはギリシア人にも未開人にも知識のある人にも知識のない人にも返さなければならない負債を負っていますと言いました。福音を恥としない。福音はユダヤ人を始めギリシア人にも信じる者全てに救いをもたらす神の力である。これを語らずにはいられないと言うその熱意の中にあって自らが滅ぼされ行くことをも顧みず進んでいくその僕には恵みと力が満ちています。知恵と聖霊が伴っています。それはさながら天使の様に守られ顔が輝いているようです。決して顔色を失う事は無く、面目を失う事は無いのです。神様がわかっていて下さるからなのです。

私たちは、神様の恵みと力、知恵と聖霊を信じて、輝ける夜半の月のように、嵐の時の灯台のように輝きを証しするものとして進み続けようではありませんか。